

1 4 1 「日本数学オリンピック問題を解いてみた (1 1)」

2 0 1 3 年 第 2 3 回 日本数学オリンピック本選 (第 1 問)

4. 鋭角三角形  $ABC$  があり, その垂心を  $H$  とする. 点  $B, C$  を通る円と線分  $AH$  を直径とする円が異なる 2 点  $X, Y$  で交わっている.  $A$  から直線  $BC$  におろした垂線の足を  $D$  とし,  $D$  から直線  $XY$  におろした垂線の足を  $K$  とする. このとき,  $\angle BKD = \angle CKD$  が成り立つことを示せ.

図 1 に示す鋭角三角形  $ABC$  において、  
3 辺を  $a, b, c$ 、3 つの角を  $\alpha, \beta, \gamma$  とする。

点  $B, C$  を通る円  $C_1$  の中心を  $O_1$ 、  
 $AH$  を直径とする円  $C_2$  の中心を  $O_2$ 、  
 $O_1$  から辺  $BC$  に下ろした垂線の足を  $P$  とする。  
 $O_1O_2$  を結ぶ直線と平行で、  
点  $P$  を通る直線と  $XY$  との交点を  $Q$  とする。  
直線  $PQ$  と  $DK$  は平行である。  
直線  $XY$  を延長し、点  $B, C$  から  
 $XY$  に下ろした垂線の足を  $E, F$   
 $XY$  と  $BC$  の交点を  $G$  とする。  
 $\angle BKD = \angle CKD$  を示すために、  
 $\triangle BEK$  と  $\triangle CFK$  が相似であることを  
示す。相似が証明されれば、相対する  
角度は等しいことから題意が証明される。

$\angle QPD = \theta$  とすると、

$$BE = PQ + \frac{a}{2} \cos \theta, \quad CF = PQ - \frac{a}{2} \cos \theta$$

$$EK = c \cos \beta \sin \theta, \quad KF = b \cos \gamma \sin \theta$$

$\triangle BEK$  と  $\triangle CFK$  の相対する辺は、 $BE$  に対し  $CF$ 、 $EK$  に対し  $KF$  であるから、それぞれの辺の比を比較する。

$$\frac{CF}{BE} = \frac{PQ - \frac{a}{2} \cos \theta}{PQ + \frac{a}{2} \cos \theta}, \quad \frac{KF}{EK} = \frac{b \cos \gamma \sin \theta}{c \cos \beta \sin \theta} = \frac{b \cos \gamma}{c \cos \beta}$$

$\frac{KF}{EK}$  については両辺の比が求められたが、 $\frac{CF}{BE}$  を求めるためには  $PQ$  及び  $\theta$  を求めなければならず、  
ここで行き詰まってしまった。

以下、 $PQ$  及び  $\theta$  求めるための計算を行うが、途中の計算は非常に複雑である。

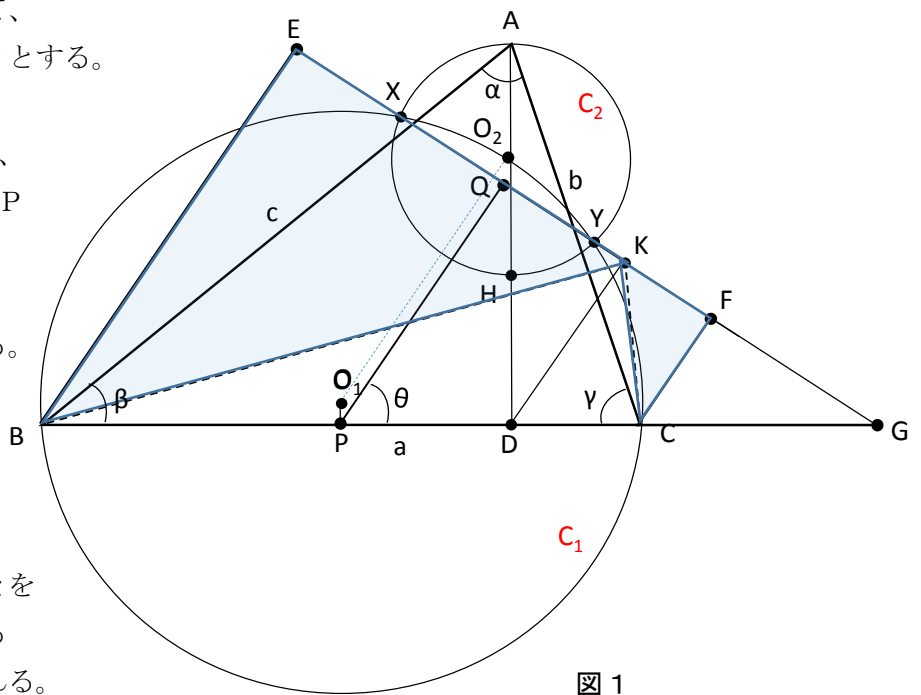


図 1

計算を単純化するため、点PとO<sub>1</sub>が一致している場合（BCが直径となる場合）について考える。  
点Bを原点とする直交座標を考え式を立てる。

求めるPQの長さは、直線XYとO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>を結ぶ直線の交点とP（O<sub>1</sub>）の距離である。

$$C_1 \text{ の半径は } \frac{a}{2}, \text{ 中心座標は } \left(\frac{a}{2}, 0\right), C_2 \text{ の半径は } \frac{c \cos \alpha}{2 \sin \gamma}, \text{ 中心座標は } \left(c \cos \beta, \frac{c \cos(\gamma - \beta)}{2 \sin \gamma}\right)$$

と求められるので、C<sub>1</sub> 及びC<sub>2</sub> は以下の式で表される。

$$C_1 : \left(x - \frac{a}{2}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{a}{2}\right)^2, C_2 : (x - c \cos \beta)^2 + \left(y - \frac{c \cos(\gamma - \beta)}{2 \sin \gamma}\right)^2 = \left(\frac{c \cos \alpha}{2 \sin \gamma}\right)^2$$

図2に示すように、半径R<sub>1</sub>, R<sub>2</sub>、中心間の距離lの2つの円の交点は、図に示す式で与えられることを用いる。図1において（但し点PとO<sub>1</sub>が一致しているとする）

$$R_1 = \frac{a}{2}, R_2 = \frac{c \cos \alpha}{2 \sin \gamma}$$

$$l = \sqrt{\left(c \cos \beta - \frac{a}{2}\right)^2 + \left(\frac{c \cos(\gamma - \beta)}{2 \sin \gamma}\right)^2} \text{ から、}$$

$$PQ = \frac{R_1^2 - R_2^2 + l^2}{2l} =$$

$$\frac{\left(\frac{a}{2}\right)^2 - \left(\frac{c \cos \alpha}{2 \sin \gamma}\right)^2 + \left(c \cos \beta - \frac{a}{2}\right)^2 + \left(\frac{c \cos(\gamma - \beta)}{2 \sin \gamma}\right)^2}{2 \sqrt{\left(c \cos \beta - \frac{a}{2}\right)^2 + \left(\frac{c \cos(\gamma - \beta)}{2 \sin \gamma}\right)^2}}$$

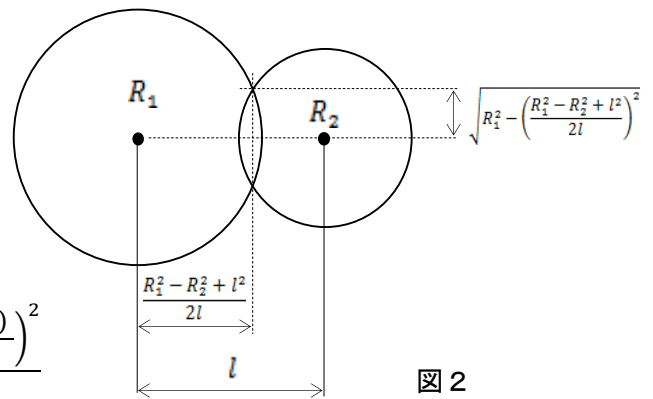


図2

計算すると、分子 =  $\frac{a^2}{2}$ , 分母 =  $\frac{c}{\sin \gamma}$  となり  $PQ = \frac{a^2 \sin \gamma}{2c} = \frac{a \sin \alpha}{2}$ （計算過程は省略）

が得られ、XYについては  $XY = \sqrt{R_1^2 - \left(\frac{R_1^2 - R_2^2 + l^2}{2l}\right)^2} = \sqrt{\left(\frac{a}{2}\right)^2 - \left(\frac{a \sin \alpha}{2}\right)^2} = \frac{a \cos \alpha}{2}$

という結果となり、驚くほど簡単な形でPQ及びXYが表わされた。

さらに、 $\tan \theta = \frac{\frac{c \cos(\gamma - \beta)}{2 \sin \gamma}}{c \cos \beta - \frac{a}{2}} = \frac{1}{\tan(\gamma - \beta)}$  から、 $\theta = \frac{\pi}{2} - (\gamma - \beta)$  である。

以上の結果を用いて、

$$\frac{CF}{BE} = \frac{PQ - \frac{a}{2} \cos \theta}{PQ + \frac{a}{2} \cos \theta} = \frac{\frac{a \sin \alpha}{2} - \frac{a}{2} \cos \left[\frac{\pi}{2} - (\gamma - \beta)\right]}{\frac{a \sin \alpha}{2} + \frac{a}{2} \cos \left[\frac{\pi}{2} - (\gamma - \beta)\right]} = \frac{\sin \alpha - \sin(\gamma - \beta)}{\sin \alpha + \sin(\gamma - \beta)}$$

$$= \frac{2 \sin \frac{\alpha + \gamma - \beta}{2} \cdot \cos \frac{\alpha - \gamma + \beta}{2}}{2 \sin \frac{\alpha - \gamma + \beta}{2} \cdot \cos \frac{\alpha + \gamma - \beta}{2}} = \frac{\sin \beta \cos \gamma}{\sin \gamma \cos \beta}, \quad \frac{\sin \beta}{\sin \gamma} = \frac{b}{c} \text{ であるから, } \frac{\sin \beta \cos \gamma}{\sin \gamma \cos \beta} = \frac{b \cos \gamma}{c \cos \beta}$$

となり、 $\frac{CF}{BE}$  は  $\frac{KF}{EK}$  と一致することが確認された。よって問題は証明された。

$\angle BKD$  を計算すると、 $\angle BKD = 90^\circ - \angle BKE$  から

$$\tan(\angle BKE) = \frac{BE}{EK} = \frac{\frac{a}{2} [\sin \alpha + \sin(\gamma - \beta)]}{c \cos \beta \sin \theta} = \frac{a \sin \gamma \cos \beta}{c \cos \beta \cos(\gamma - \beta)} = \frac{a \sin \gamma}{c \cos(\gamma - \beta)} = \frac{\sin \alpha}{\cos(\gamma - \beta)}$$

$$\tan(\angle BKD) = \tan\left(\frac{\pi}{2} - \angle BKE\right) = \cot(\angle BKE) = \frac{\cos(\gamma - \beta)}{\sin \alpha}$$

$$\text{よって, } \angle BKD = \tan^{-1} \left[ \frac{\cos(\gamma - \beta)}{\sin \alpha} \right]$$

図を見ただけでは分からないが、計算で出てきた「 $\gamma - \beta$ 」は、 $\angle BGE$  の角度を表している。

計算により幾何学問題を解いていると、出てきた結果が幾何学的な意味を示していることに気付くことが多い。この「 $\gamma - \beta$ 」もその一例である。

例えば、 $\alpha = 60^\circ$ 、 $\beta = 45^\circ$ 、 $\gamma = 75^\circ$  として角度を計算してみると、

$$\angle BKD = \tan^{-1} \left[ \frac{\cos(\gamma - \beta)}{\sin \alpha} \right] = \tan^{-1} \left[ \frac{\cos 30^\circ}{\sin 60^\circ} \right] = \tan^{-1}[1] = 45^\circ \text{ となる。}$$

以上より、 $BC$  が直径となる場合において点  $K$  はその円周上にあり、点  $Y$  に一致し  $\angle BKC$  は  $90^\circ$  であることがわかる。

### 2014年 第24回 日本数学オリンピック本選 (第1問)

1. 三角形  $ABC$  があり、その外心を  $O$  とする。辺  $BC$  の中点を通り  $\angle BAC$  の二等分線に垂直な直線を  $l$  とする。 $l$  が線分  $AO$  の中点を通るとき、 $\angle BAC$  の大きさを求めよ。

図1に示す三角形  $ABC$  において、  
 3辺を  $a, b, c$ 、3つの角を  $\alpha, \beta, \gamma$ 、  
 $BC$  の中点を  $M$  とする。  
 $M$  を原点とする  $X-Y$  平面座標を考える。  
 $\angle BAC$  を2等分する直線と辺  $BC$  ( $X$  軸)  
 のなす角度は  $\frac{\alpha}{2} + \beta$  だから、この直線に垂直  
 な直線  $l$  の辺  $BC$  ( $X$  軸) とのなす角度は  
 $\frac{\alpha}{2} + \beta + \frac{\pi}{2}$  である。

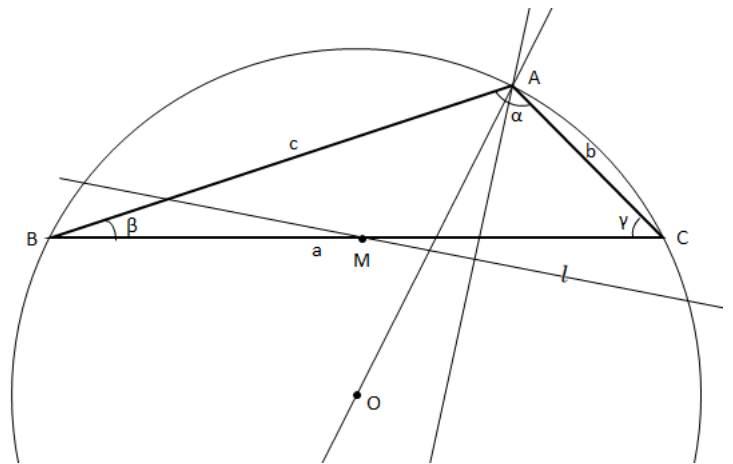


図1

lはBCの中点Mを通るので、その方程式は

$$y = \tan\left(\frac{\alpha}{2} + \beta + \frac{\pi}{2}\right)x = -\frac{1}{\tan\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)}x \quad \dots\dots\dots ①$$

点Aの座標は  $\left(c \cos \beta - \frac{a}{2}, c \sin \beta\right)$ 、点Oの座標は  $(0, R \cos \alpha)$  であるから、

直線AOの方程式は次の②で表される。

$$y = \frac{c \sin \beta - R \cos \alpha}{c \cos \beta - \frac{a}{2}}x + R \cos \alpha \quad \dots\dots\dots ②$$

ここでRは外接円の半径である。

① ②を解けばその交点Mが求められる。MはAOの中点だから、Mの座標を  $(x_1, y_1)$  とすると、

$$x_1 = \frac{c \cos \beta - \frac{a}{2}}{2}, \quad y_1 = \frac{c \sin \beta + R \cos \alpha}{2} \text{ に一致する。}$$

よって、

$$x_1 = \frac{-R \cos \alpha}{\frac{1}{\tan\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)} + \frac{c \sin \beta - R \cos \alpha}{c \cos \beta - \frac{a}{2}}} = \frac{c \cos \beta - \frac{a}{2}}{2} \quad \dots\dots\dots ③$$

$$y_1 = -\frac{1}{\tan\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)}x_1 = -\frac{1}{\tan\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)} \cdot \frac{c \cos \beta - \frac{a}{2}}{2} = \frac{c \sin \beta + R \cos \alpha}{2} \quad \dots\dots\dots ④$$

AOの中点という条件は、 $x_1$  と  $y_1$  のいずれかで満たせば、もう一方も満たされるため、簡単な④式で計

算する。正弦定理より  $R = \frac{a}{2 \sin \alpha}$  だから、④は次の式となり、これを満たす  $\alpha$  を求めればよい。

$$-\frac{1}{\tan\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)} \cdot \frac{c \cos \beta - \frac{a}{2}}{2} = \frac{c \sin \beta + \frac{a}{2 \sin \alpha} \cdot \cos \alpha}{2}$$

$$\text{展開すると、} -c \cos \beta \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) + \frac{a}{2} \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) = c \sin \beta \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) + \frac{a \cos \alpha}{2 \sin \alpha} \cdot \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)$$

$$\text{整理して、} c \left[ \cos \beta \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) + \sin \beta \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) \right] + \frac{a}{2} \left[ \frac{\cos \alpha}{\sin \alpha} \cdot \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) - \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) \right] = 0 \quad \dots\dots\dots ⑤$$

$$[ \quad ] \text{内はそれぞれ、} \cos \beta \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) + \sin \beta \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) = \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta - \beta\right) = \cos \frac{\alpha}{2}$$

$$\frac{\cos \alpha}{\sin \alpha} \cdot \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) - \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) = \frac{\cos \alpha \sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right) - \sin \alpha \cos\left(\frac{\alpha}{2} + \beta\right)}{\sin \alpha} = \frac{\sin\left(\frac{\alpha}{2} + \beta - \alpha\right)}{\sin \alpha}$$

$$= \frac{\sin\left(\beta - \frac{\alpha}{2}\right)}{\sin \alpha} \text{ と変形できるので、} ⑤ \text{ は } c \cos \frac{\alpha}{2} + \frac{a}{2} \cdot \frac{\sin\left(\beta - \frac{\alpha}{2}\right)}{\sin \alpha} = 0 \text{ と書ける。}$$

分母を払って展開すると、 $2c \sin \alpha \cos \frac{\alpha}{2} + a \sin \beta \cos \frac{\alpha}{2} - a \cos \beta \sin \frac{\alpha}{2} = 0$

$\sin \alpha = 2 \sin \frac{\alpha}{2} \cos \frac{\alpha}{2}$ ,  $a \sin \beta = b \sin \alpha$ ,  $a \cos \beta = c - b \cos \alpha$  を入れて、

$$4c \sin \frac{\alpha}{2} \cos^2 \frac{\alpha}{2} + 2b \sin \frac{\alpha}{2} \cos^2 \frac{\alpha}{2} - c \sin \frac{\alpha}{2} + b \sin \frac{\alpha}{2} \cos \alpha = 0,$$

$\sin \frac{\alpha}{2}$  で割り、 $\cos \alpha = 2 \cos^2 \frac{\alpha}{2} - 1$  を入れると、

$$(4c + 2b) \cos^2 \frac{\alpha}{2} - c + 2b \cos^2 \frac{\alpha}{2} - b = 0, \quad 4(b + c) \cos^2 \frac{\alpha}{2} = b + c, \quad \cos^2 \frac{\alpha}{2} = \frac{1}{4}$$

以上より  $\cos \frac{\alpha}{2} = \pm \frac{1}{2}$ ,  $\frac{\alpha}{2} = \frac{\pi}{3}$  または  $\frac{2\pi}{3}$ ,  $\alpha = \frac{2\pi}{3}$  ( $\alpha = 120^\circ$ ) または、 $\frac{4\pi}{3}$  ( $\alpha = 240^\circ$ )

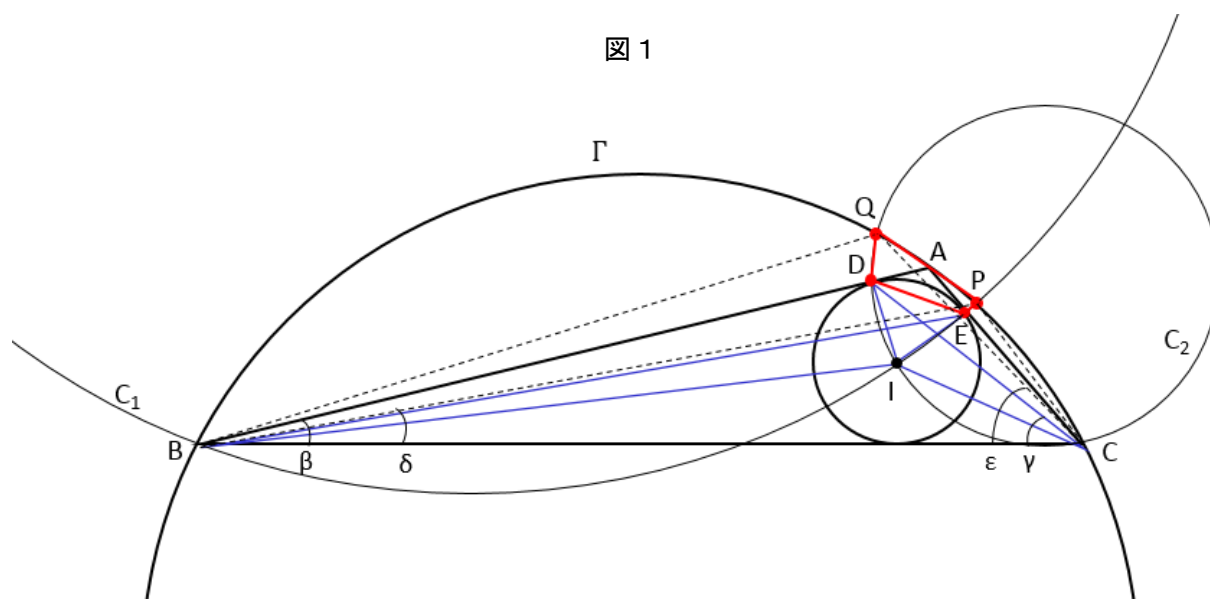
$\alpha < 180^\circ$  から、 $\angle BAC = 120^\circ$  が求める角度である。

2014年 第24回 日本数学オリンピック本選 (第4問)

4. 二等辺三角形でない三角形  $ABC$  があり、その外接円を  $\Gamma$ 、内心を  $I$  とおく。また、三角形  $ABC$  の内接円と辺  $AB, AC$  の接点をそれぞれ  $D, E$  とおく。三角形  $BEI$  の外接円と  $\Gamma$  の交点のうち  $B$  でない方を  $P$ 、三角形  $CDI$  の外接円と  $\Gamma$  の交点のうち  $C$  でない方を  $Q$  とするとき、4点  $D, E, P, Q$  は同一円周上にあることを示せ。

図1に示す三角形  $ABC$  において、 $\angle BAC = \alpha$ ,  $\angle ABC = \beta$ ,  $\angle ACB = \gamma$ 、 $\triangle BEI$  の外接円を  $C_1$ 、 $\triangle CDI$  の外接円を  $C_2$ 、 $\angle PBC = \delta$ ,  $\angle QCB = \varepsilon$  とおく。

点  $D, E, P, Q$  が同一円周上にあることを示すには、四角形  $DEPQ$  が円に内接することを示せばよいが、そのためには内接四角形の特徴である、対角の和が  $180^\circ$  になることをいえばよい。



四角形B I E P, 四角形C I D Q 扁平な四角形であるが、それぞれ  $\triangle B E I$  の外接円  $C_1$ ,  $\triangle C D I$  の外接円  $C_2$  に内接しているので、対角の和は  $180^\circ$  である。このことから、四角形D E P Q の内角をもとめていく。

拡大図 (図2) 参照

まず、四角形B I E P について、

$\angle QPE = \angle BPE + \angle BPQ$ ,  $\angle BPE$  は  $\angle BIE$  の対角だから、 $\angle BIE$  を求めると、

$$\angle BIE = \angle BID + \angle DIE, \quad \angle BID = \frac{\pi}{2} - \frac{\beta}{2},$$

$\angle DIE = \pi - \alpha = \beta + \gamma$  だから、

$$\angle BIE = \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\beta}{2}\right) + (\beta + \gamma) = \frac{\pi}{2} + \frac{\beta}{2} + \gamma$$

$$\text{よって、} \angle BPE = \pi - \left[\frac{\pi}{2} + \left(\frac{\beta}{2} + \gamma\right)\right] = \frac{\pi}{2} - \left(\frac{\beta}{2} + \gamma\right)$$

.....①

$$\angle BPQ = \angle BCQ \text{ (円 } \Gamma \text{ の同一円周角)}, \quad \angle BPQ = \varepsilon \text{ だから、} \angle QPE = \frac{\pi}{2} - \left(\frac{\beta}{2} + \gamma\right) + \varepsilon$$

$$\angle DEP = \angle PEI - \angle DEI$$

$$\angle PEI \text{ は } \angle PBI \text{ の対角だから、} \angle PBI = \delta - \frac{\beta}{2} \text{ より、} \angle PEI = \pi - \left(\delta - \frac{\beta}{2}\right)$$

$$\angle DEI \text{ は } DI = EI \text{ の二等辺三角形で、} \angle DIE = \pi - \alpha \text{ だから、} \angle DEI = \frac{\alpha}{2} \text{ である。}$$

$$\text{以上より、} \angle DEP = \angle PEI - \angle DEI = \pi - \left(\delta - \frac{\beta}{2}\right) - \frac{\alpha}{2} = \pi - \delta - \left(\frac{\alpha}{2} - \frac{\beta}{2}\right) \quad \text{.....②}$$

次に、四角形C I D Q について、

$\angle PQD = \angle CQD + \angle CQP$ ,  $\angle CQD$  は  $\angle CID$  の対角だから、 $\angle CID$  を求めると、

$$\angle CID = \angle CIE + \angle DIE, \quad \angle CIE = \frac{\pi}{2} - \frac{\gamma}{2}, \quad \angle DIE = \pi - \alpha = \beta + \gamma \text{ だから、}$$

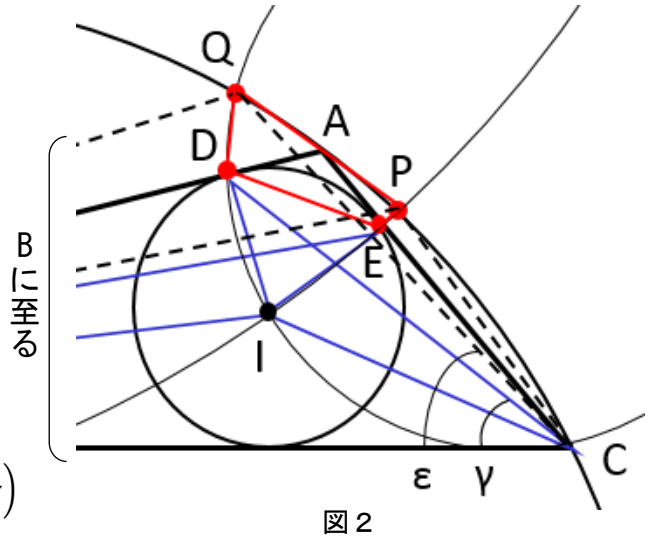
$$\angle CID = \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\gamma}{2}\right) + (\beta + \gamma) = \frac{\pi}{2} + \beta + \frac{\gamma}{2} \text{ よって、} \angle CQD = \pi - \left[\frac{\pi}{2} + \left(\beta + \frac{\gamma}{2}\right)\right] = \frac{\pi}{2} - \left(\beta + \frac{\gamma}{2}\right)$$

$\angle CQP = \angle CBP$  (円  $\Gamma$  の同一円周角)、 $\angle CBP = \delta$  だから、

$$\angle PQD = \frac{\pi}{2} - \left(\beta + \frac{\gamma}{2}\right) + \delta \quad \text{.....③}$$

$$\angle EDQ = \angle QDI - \angle EDI$$

$$\angle QDI \text{ は } \angle QCI \text{ の対角だから、} \angle QCI = \varepsilon - \frac{\gamma}{2} \text{ より、} \angle QDI = \pi - \left(\varepsilon - \frac{\gamma}{2}\right) \quad \text{.....④}$$



$\triangle DEI$  は二等辺三角形で、 $\angle DIE = \pi - \alpha$  だから、 $\angle EDI = \frac{\alpha}{2}$  である。

以上より、 $\angle EDQ = \angle QDI - \angle EDI = \pi - \left(\varepsilon - \frac{\gamma}{2}\right) - \frac{\alpha}{2} = \pi - \varepsilon - \left(\frac{\alpha}{2} - \frac{\gamma}{2}\right)$

①②③④より、

$$\angle QPE = \frac{\pi}{2} - \left(\frac{\beta}{2} + \gamma\right) + \varepsilon \quad \angle DEP = \pi - \delta - \left(\frac{\alpha}{2} - \frac{\beta}{2}\right)$$

$$\angle PQD = \frac{\pi}{2} - \left(\beta + \frac{\gamma}{2}\right) + \delta \quad \angle EDQ = \pi - \varepsilon - \left(\frac{\alpha}{2} - \frac{\gamma}{2}\right)$$

対角の和を計算すると、

$$\angle QPE + \angle EDQ = \left[\frac{\pi}{2} - \left(\frac{\beta}{2} + \gamma\right) + \varepsilon\right] + \left[\pi - \varepsilon - \left(\frac{\alpha}{2} - \frac{\gamma}{2}\right)\right] = \frac{3\pi}{2} - \frac{\alpha + \beta + \gamma}{2} = \frac{3\pi}{2} - \frac{\pi}{2} = \pi$$

$$\angle PQD + \angle DEP = \left[\frac{\pi}{2} - \left(\beta + \frac{\gamma}{2}\right) + \delta\right] + \left[\pi - \delta - \left(\frac{\alpha}{2} - \frac{\beta}{2}\right)\right] = \frac{3\pi}{2} - \frac{\alpha + \beta + \gamma}{2} = \frac{3\pi}{2} - \frac{\pi}{2} = \pi$$

それぞれの対角の和が  $\pi$  ( $180^\circ$ ) となり、点 D, E, P, Q が同一円周上にあることが証明された。

この「日本数学オリンピック問題を解いてみた」も 10 回を超えた。

国際数学オリンピックの国内予選ともいえるべき、日本数学オリンピックが 1991 年に始まってから、既に 30 年以上経過した。日本数学オリンピックには予選と本選があり、当初は予選・本選問題に拘らず解いていたが、しばらくすると予選問題に物足りなさを感じるようになり、本選問題に絞って解くようになった。中でも、私にとって「幾何学問題」と「代数問題」が面白く、適度な難しさで解けた時の満足感を味わうことができる。特に幾何学問題は、出題者の意図を汲み取れると嬉しい。

幾何学問題は、さまざまな図形の知識を動員して解くことが本筋と思うが、それができない場合、良くないと思いつつ、解析幾何学と三角関数の知識に頼ってしまう。

「2014 年 第 24 回 日本数学オリンピック本選 (第 4 問)」は、幾何学の知識で解いたもので、こういう解き方ができれば満足である。(2023. 02. 06)